

除夜の鐘



除夜の鐘は、一年の煩惱を払うためにつくと思われがちですが、宗派によつて考え方には違いがあるようです。

一念寺は浄土真宗のお寺です。浄土真宗をひらかれた親鸞聖人は、「正像末和讃」に「無明煩惱しげくして 塵数のごとく遍満す 愛憎違順することは 高峰岳山にことならず」とお示しです。「煩惱は無数のチリのよ

れました。潔白な私に外から煩惱がひつついてくるのではなく、私自身が煩惱で成り立っている、というのが親鸞聖人の人間観です。

では、払えない煩惱が私に満ちているのに、除夜の鐘をつく意味はあるのでしょうか？

『大無量寿経』には「正覚大音 響流十方」、つまり「仏さまがさとりをひらき、どんなあなたでも救うぞという教えが大きな音のように世界中に響きわたる」と説かれています。

お寺の鐘の音を、煩惱がみちみちている私を「そんなあなただからこそ私は捨てておけない。必ず救うよ」という仏さまのお慈悲の叫び声なのだと思つて聞いてほしいと思います。

俗に「煩惱の数 は百八個」と言いますが、親鸞聖人が仰るには百八どころではなくチリのよ

うに多いのだそうです。それが私にみちみちているのだから、大晦日に鐘をついた程度のこと

で払えるはずがありません。それどころか、親鸞聖人はご自身のことを煩惱成就・煩惱具足の身である

と見つめていか

Instagram

